

【重点分野－3】
～STOP雇用不安！みんなの力で職場を改善しませんか～
連合本部 LINE 労働相談（2月24-25日実施）集計結果報告

連合本部では、全国一斉集中労働相談に合わせ、2月24日、25日限定で『～STOP雇用不安！みんなの力で職場を改善しませんか～』をテーマに無料通信アプリ「LINE」による労働相談を実施した。

この取り組みは、相談者の問題解決に向けた対応とあわせ、労働相談を通じて組合結成や処遇改善の取り組み等の対応を行うとともに、寄せられた相談をもとに政策・制度への反映をはかることを目的とし、実施している。なお、同時期に実施した「連合全国一斉集中労働相談ホットライン」（全地方連合会）の集計結果については別紙を参照いただきたい。

I. 日 時：2022年2月24日(木)～25日(金) 10～15時（両日）

II. 場 所：連合本部6階 フェアワーク推進センター

III. 相談対応

1. 対応相談員：15名（連合本部スタッフ）
2. 相談体制：無料通信アプリ「LINE」（期間限定）

IV. 相談総件数：123件（24日：80件、25日：43件）

V. 相談概況：

<事前のPRについて>

無料通信アプリ「LINE」による労働相談の実施にあたり、連合ホームページ、Facebook、Twitterや、リスティング広告など、各種広報媒体を活用し、事前にLINE@へお友だち登録を呼びかけた。

<属性>

年代別では、40代と30代からの相談がそれぞれ30%超と中間年齢層からの相談で65%強を占めた。性別では女性が約6割となり、雇用形態別では正社員が約7割を占めた。

<主な内容>

相談内容別では「差別（パワハラ・嫌がらせ等）」がトップで24.2%、次いで「労働契約関係（雇用契約等）」（13.1%）、「労働時間関係（休日・休憩）」（7.1%）、「賃金関係（その他）」（6.1%）と続いた。具体的にはコロナ禍を背景とした労働条件の不利益変更や、使用者側の不適切な管理責任が問われる相談、ハラスメントの影響により精神疾患を罹患し退職を余儀なくされたケースも散見される。主な相談内容は別紙のとおり。

以 上

寄せられた主な相談内容

■差別等

- パワハラを受け精神科受診の上、休職届を出したが受理されず雇止め。
(男性・運輸業)
- 会社から解雇を言い渡された。業務縮小が理由であるにも関わらず対象は障がい者である自分だけ。コロナ禍における在宅勤務などで以前から不当な扱いも受けていた。年齢的にも転職への不安があり、辛くて毎日泣いている。
(正社員・女性・40代・卸小売業)
- パワハラが原因で休職しているが、会社から有給休暇を使って休むよう言われた。納得がいかず会社に申し入れると、会社が納得いくような理由を用意しろと無理難題を言ってきた。(正社員・女性・30代／神奈川)
- 薬局で事務を担当。経営者かつ薬剤師が事務員を見下しており、業務中であっても患者の前で怒鳴ってくる。他の事務員も同じ思いだが、生活があるので強く言えない。(正社員・女性・40代・医療、福祉／秋田)

■労働契約関係

- 病気を理由に正社員からパートへの雇用形態の変更を一方向的に言い渡された。職場ではパワハラによる退職が多数でている。(正社員・女性・40代・医療福祉／長崎)
- コロナ禍の影響により出勤日数を減らされ、正社員を優先した対応。この1年間賃金は月に2-3万円の減少。給料が下がった分を補填するため、出勤しない日を自主的に有給休暇扱いにした。(パートタイマー)
- 雇用契約書の交付、労働条件通知書の明示がない。正社員登用する言われたが、昇給・休日・労働時間などが分からずに働いている。何度か雇用契約書の交付を希望したが忙しいという理由ではぐらかされた。交通費も請求して初めて支給された。言わなければ何もしてくれない。
(正社員・男性・30代・建設業／東京)

■労働時間関係

- 日曜祝日も仕事があれば平日と言われ出勤させられる。出勤指示も前日に命じられ予定も立てられない。残業による割増賃金もなく、会社に申し入れても「これがうちのやり方だ」とはねつけられる。労働組合がないので自分でなんとかするしかない。(正社員・男性・40代・運輸業／埼玉)
- 放課後等デイサービスで働いているが、休憩が取れたことがない。管理者に相談しても、「休憩など取る必要はない」と聞く耳を持たない。
(医療・福祉)
- 1日12時間くらい働いている。(嘱託職員・男性・30代・運輸業／東京)

■コロナ関係

- 発熱したので社長に連絡したら「病院は受診するな」と言われた。
(正社員・女性・20代・飲食宿泊業／宮城)

以上